

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4078300169		
法人名	社会福祉法人 立花福祉会		
事業所名	グループホーム フラワーハイム		
所在地	福岡県八女市立花町下辺春5460番地1 (電話) 0943-37-1120		
自己評価作成日	令和 3 年 4 月 20 日	評価結果確定日	令和 4 年 3 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

法人理念「尊厳」のもと「フラワーハイム」では、お一人おひとりの個性を尊重した支援を目指す。「目配り、気配り、心配り」をモットーに入居者様が毎日の生活に「生きる楽しみ」や「共に生活することによって生活に充実感を感じて頂き、このホームを「自分自身の居場所」として行けるようサポートしていきたいと思う。また、職員自ら創意工夫し、安心・衛生面に配慮しながら入居者様の日常生活及び人生経験を重んじ、笑いの絶えない「我が家」のような暮らしをサポートしていきたいと思う。入居者様の生活スタイルに合わせ、地域との交流を行い、自立支援のための介護を提供していく。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www. kai gokensaku. jp/
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 4 年 2 月 3 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の法人敷地内に特別養護老人ホームや在宅介護支援センター、デイサービスが隣接しており、周囲は梅や桜、竹林で囲まれ自然豊かで四季を感じやすく生活できる。庭に草花を植え、見ごろになると散歩をしたり、事業所内に飾るなど利用者を楽しませている。コロナ禍において感染症対策を徹底しているため地域との交流は自粛していることが多いが、時期が来れば再開する予定である。行政職員や地域の役員との関係性は保たれ、運営推進会議などで情報交換している。言葉による抑制廃止に向け、言葉のマニュアルを作成し実践している。外部評価の課題を達成するために職員間で検討され入浴環境を改善した。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「尊厳」をもとに基本方針並びに部門目標を各スタッフと共に協議の上で掲げ、毎日の朝礼時に唱和して確認しながら実践に努めている。	毎年度、法人理念をもとに事業所の部門目標を立て、朝礼などで確認している。日々の業務においても声掛けをし、月1回のケアカンファレンス時にも必要に応じて職員全体で確認している。行政や地域役員との関わりを大切に地域社会の一員としての役割を果たせるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催されている祈願祭、百田地区左義長（さぎつつよ）、観梅会に参加していた、また地域住民の方に事業所主催の行事への参加声掛けし交流していたが現在ではコロナ感染症拡大防止の為、現在は控えている。	事業所は自治会に加入し、地域行事等日常的に交流があったが、コロナ禍においても職員が一部の季節行事に関わるなど努力している。事業所便りは年4回発行し、地域や家族の方に対して日頃の様子など情報発信に努めている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政主催の介護予防教室等に協力する体制を整えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍以前は、2か月に1回（年6回）入居者、家族、市職員、区長、民生委員、施設長、職員が参加して事業報告及び運営状況の報告を行っていた、現在は書面にて報告し助言を頂きサービスの向上に努めている。	運営推進会議には家族、行政職員、区長などが参加している。事業所の行事、利用状況、ヒヤリハット、身体拘束廃止委員会の活動報告等が議題とされている。参加者からは火災やワクチンについて幅広い内容の意見交換が行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から市役所や包括支援センターの担当者へ電話や訪問することで相談や助言を受け協力頂いている。	主に運営推進会議を通し相談、報告している。また、電話や窓口、郵便にて介護保険要介護認定申請などの行政手続き、入居相談など日頃から行政と協力関係にある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠はせず、玄関扉に鈴を掛けたり、居室にセンサーを設置したりして、移動傾向を把握している。職員による定期的な身体拘束廃止のための研修を現在は書面にて行い、拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしないケアを目指し、委員会を中心に話し合い、日々の介護を実践している。日中は施錠していない。転倒リスク軽減策として、センサーや鈴を利用し、拘束することなく支援している。研修会も開催され、個人レポート内容も細かく記載されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	コロナ禍において外部研修への参加がなかなか出来ない状況だが、法人内での虐待防止委員会参加や職員研修レポート等で理解を深め虐待防止への意識を高めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度についてのパンフレット等を準備し必要とされる入居者や家族へ助言できる体制を整えている。職員においては内部研修で理解を深め活用出来るように努めている。	権利擁護に関する制度について、利用者や家族に対して利用開始時や運営推進会議時に説明している。法人の代表職員が制度の理解のためオンライン研修会を受講、その後資料が回覧され、伝達研修会として理解を深めている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前や入居の際に契約書・重要事項説明書に沿って解りやすく説明を行い、納得していただき理解を得たうえで契約を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に本人や家族に対して相談苦情窓口の説明を行っている。重要事項説明所をホーム内に掲示し意見箱を設置している。また、日頃から入居者や家族とコミュニケーションを取り意見や要望の確認をしている。	普段から利用者と家族の意向を聞き取り、支援につなげる体制はある。主食の硬さの要望に対しては個別に調理したり、好きな花を見るために移動図書館で本を借りたり、面会の要望に対して窓越し面会を実施する等、利用者家族の思いをできる限りマッチングさせるよう取り組んでいる。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケアカンファレンスで職員間での意見交換や情報の共有をしている。日頃より発言や提案がしやすいような環境づくりに取り組み、仕事への意欲が高まるように努めている。	職員は業務に対する改善や行事企画などに対して、いつでも話し合える環境の中にある。職員発信による提案を運営に反映させ、ケアの方法について意見を出し合い実践につなげている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人運営者は職員一人ひとりと面談を持つことで日頃の努力や実績を把握し向上心を持って仕事を行えるよう配慮し、資格所得や経験年数に応じ昇給、昇進を行なうことで意欲を持って働けるよう取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	施設内研修を行い、職員全員の権利が充分尊重されるように配慮を行ってきた。職員の募集や採用にあたっては、介護職の経験や資格及び人間性を重視している。	法人は職員が資格取得や研修参加の希望があれば、自己研鑽で能力が発揮できるよう支援に努めている。内部研修会の報告書は各職員詳細に書かれ、内容を理解しようとする姿勢がある。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人内でも研修を実施し職員に対しての人権教育・啓発活動に力を入れている。入居者に対してはプライバシーに配慮したり個別ケアを意識して取り組んでいる。	法人は研修に対する年間計画を立案しているが、今年度は人権学習として高齢者に関する内容を学習した。今後は様々な人権テーマを定め、研修会を実践していく予定である。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格所得、力量に応じた研修を受講出来るよう体制を整えている。また、法人主催の研修会を開催しスキルアップに努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会や研修会等へ参加しネットワークづくりや情報交換にてサービスの質の向上に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画担当者がまず本人との関係性を築くために困っていることや不安なこと、要望などを聞き取りし安心できるよう声掛けし、良好な関係性を図ることが出来る様に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立って話を聞くことで本人と家族の思いの違いや家族同士の中での行き違いも含めて全員の気持ちを受け止めて、良好な関係性を築くことが出来るように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の体調や生活状況、意向や要望等、積極的な会話を通じて本人と家族が現在一番必要としている支援を見極めてくみ取るように努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物たたみ、食事の準備や片付け等、一人ひとりの現有能力を見極め、力を発揮出来る機会を提供している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から家族と連絡を取り生活状況などを伝えたり、本人にとって必要な品物を持参して頂くことで一緒に支えている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知り合いの方等、来所される際は事前に連絡をして頂き、ガラス越しでの面会を実施している。馴染みの場所等への外出支援はコロナ禍の為、現在自粛している。	馴染みの人とのかわりを保つために、ガラス越しの面会や年賀状や電話のやりとりを支援している。以前は昔からの地域祭りや行事に参加したり、近隣のコスモスやアジサイ、彼岸花を見学するバスハイクを企画していたが、今後も状況が許せば再開する予定である。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者の人間性を十分に把握しトラブルが生じないように配慮している。入居者同士で困っていることや出来ないことを手伝ったりしてお世話をされている方もいる。諸活動では一緒に参加して体操やカラオケを楽しまれている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族からの要請があれば、必要に応じて相談等を継続している。他施設や医療機関等へ移られた場合は情報提供を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃からコミュニケーションを取り表情等を見て入居者本人の視点での意向の確認に努めている。把握困難な場合は本人の視点で検討したり家族からの意向を聞き取るように努めている。	毎日の生活について、利用者が希望に近い形で過ごせるよう、様々な生活場面で、どういう風にしたいのか聴き取りして対応している。意向の把握が困難な場合には、家族や以前の関係者に確認するなどして、できるだけ本人の意向に近い対応ができるよう努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の協力の下、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、サービスの利用経緯等を把握し本人との会話の中からも、その他の習慣等の情報収集へ努め職員間での情報共有を図っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケース記録にて、一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態の把握に努め、毎月のケアカンファレンスではモニタリングを兼ねて総合的に現状把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスにて各入居者も生活状況を職員で共有し本人の思いや身体状況に適した介護計画の作成とモニタリングを行い定期的な見直しや振り返りを行っている。	ケアプランの実施と共にモニタリングを始める。モニタリングと併行して聴き取りした家族や職員の意見、医師からの情報や助言を担当者会議で話し合い、原案を作る。家族の来所時に、家族に説明し同意を得ている。月に2度ほど家族の来園があるので、家族との意見交換や説明は支障なく行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、気づきなど、毎日のケース記録を記入し職員間で情報を共有しながら実践や計画の見直しの参考にしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに応じ、かかりつけ医との連携や重度化対応等、柔軟な対応での支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に地元美容室からの訪問でカットサービスを受けている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回、定期的にかかりつけ医の往診にて健康状態を把握して頂いている。体調変化時には速やかに報告し指示を仰ぎ対応し状態の悪化防止に努めている。また、専門医受診では家族付き添いで受診して頂いている。	入所時に事業所の嘱託医を主治医とするか、利用者が以前から掛かっている医師を主治医とするか確認している。以前からの医師を入所後も主治医とする場合には、受診時の対応は家族が支援している。その際には医師への必要な情報や医師からの説明を記載する受診ノートを用いて家族と情報を共有している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日勤帯で看護師を配置、不在時には連絡を取れる体制を整えている。体調不良時や介護職が疑問に思うことはアドバイスを受けて対応している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には速やかに情報提供を行い、病院職員との関係作りを行っている。また、訪問や電話による状態確認等の情報交換を行い早期退院に繋がれるように務めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の指針を示し確認を行っている。終末期は本人・家族と話し合いを行い、事業所で出来る事を十分に説明しながら方針の共有を行っている。関係医療機関へは適宜情報提供し、指示を受けて支援に取り組んでいる。	入所時に、利用者が重度化した場合のホームで出来る対応について説明し、同意を得ている。主治医から終末期となったことが伝えられる際に、改めて家族と看取り介護について話し合い、確認を得て看取り介護を始めている。看取り介護が始まった後も、随時家族の意向を確認しながら進めている。家族からの希望があれば同宿などの支援をしている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間帯職員1名の為、同法人の宿直者からの応援や、他の職員招集体制を整えている。また、全ての職員は応急手当や初期対応について学んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回（9月・3月）の避難訓練を行っている。地域の方とは、地域運営推進会議の際に連絡方法や応援体制について確認し協力体制を整えている。	火災を想定した避難訓練は年2回行われている。法人内施設が隣接しており、夜間には当直者の応援が得られる。避難訓練の実施について地域運営推進会議で予告し、会に連絡方法や応援体制について確認し協力体制を整えている。災害時の連絡網には区長も入っている。備蓄品も整備されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念である「尊厳」を重んじ、利用者一人ひとりの気持ち・誇り・プライバシーを損なうことがないように声掛け、対応を行っている。また、言葉のマニュアルを作成し、常に言葉遣いに注意する様心掛けている。	利用者への尊厳の思いは言葉に表れるとの考えから、毎月事業所内で開かれる身体拘束廃止委員会で検討を重ねて、「フラワーハイム言葉のマニュアル」を作成し、令和元年から使用している。職員はこのマニュアルに準じた自己チェック表により毎月自身の言葉遣いを見直している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	適宜傾聴し、希望や意向等聞き取りしやすい環境作りに努めている。表情や会話からも意向や要望を察し、本人の希望に添うよう対応している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールを大まかに組んでいるが、一人ひとりの生活リズムに合わせて臨機応変に対応し入居者の意思を尊重しながら支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類については家族に準備して頂いている。毎日の整髪・整容支援し、更衣の際にご自身で好みの衣服を選んでもらっている。定期的な訪問美容にて散髪して頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態に合わせた食器を準備し食べやすいように食材をカットする等して工夫したり雰囲気配慮した盛り付けをして食事を提供している。食後は食器の後片付けやテーブル・お盆拭きを入居者が行われている。	利用者が食事の際に使用しているお椀や箸は、実際に利用者が自宅で使用していたものである。食事前に献立説明を行っているが、和やかな雰囲気ですら始められるように、食事に興味を持たせるように心がけている。食事中はテレビを消し、楽しい雰囲気での食事になるよう支援している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一法人栄養士による献立にて1日1400kcal前後の食事を提供している。食事、水分摂取量は個別に毎日記録している。希望者にはペットボトルにお茶等を準備している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促している。支援が必要な方は援助し義歯洗浄等を行い口腔内の清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄チェックを行い、個々の排泄リズムに応じてトイレの声掛けや援助を行っている。	自身でトイレに行く利用者については、その時に合わせて必要な支援をしている。介助が必要な利用者については、その人の間隔に合わせて介助している。現在、おむつ使用者はなく、全員トイレを利用している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にてチェックを行い、排便困難状況時は緩下剤の服用にて対応している。リハビリ体操の実施や食事前の飲茶を促したり飲み物の種類を変えて提供する等の工夫をして便秘の予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日お風呂は沸かし、基本的に夏場は週3回、冬場は週2回の入浴を行い希望があればその他にも対応している。その日の体調やタイミングで好みの湯量や温度を調整し希望に沿った援助を行っている。	お風呂は毎日沸かしているため、利用者の拒否があっても無理な入浴を押しつけることはない。時間をずらし、日をずらし、利用者のペースに合わせた入浴支援が行われている。浴室の窓からは周囲の自然を楽しむことができる。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握し、本人の状態に合わせて生活リズムを整えるよう努めている。不眠の場合にも午睡や本人のリズムに合わせて休息を促している。居室には各部屋エアコンを設置しており室温調整し、安眠出来る環境を整えて支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	2週間に1回の往診にて看護師による服薬管理を行っている。服薬表を作成し現在服用している薬の名前と効能等を分かりやすく表示し処方変更の際には職員間で情報を共有している。配薬の際は職員2名で確認し誤薬防止に努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や好みを把握し、塗り絵やカラオケ、野球鑑賞、庭の草取りや水やり等、個々が楽しく過ごす事が出来る様に支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花を観たいと言う希望に応じてバスハイク等の計画を立てて支援していたが現在はコロナ感染症予防の為、実施は見合わせている。天気の良い日には園内の散歩をする等、出来るだけ外に出る機会を作り気分転換を図ることが出来る様に支援している。	天候に応じて敷地内を散歩している。外の空気、自然の眺めを楽しむため建物外には椅子を用意している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては出来る限り所有して頂く事が望ましいと考えているが、認知症状の進行に伴い金銭管理が難しく所持して頂いていない。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時の電話代行支援や年賀状を書いて頂く機会を提供し、家族や大切な方との交流が継続出来る様に支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアのテーブルには園内にある花を摘んで飾り季節感を得ることが出来る様にしている。また、不快な音や光が入らないようにして共有のスペースが心地よいものになるように努めている。	建物内はバリアフリーのフローリングに統一されている。季節感を大切に、存分に味わう生活を満喫して欲しいとの思いから、周囲の季節の変化に応じてフロアの飾り付けや模様替えしたり、テーブルやソファの配置換えもしている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローにはソファやテーブル、椅子を配置し、入居者同士が交流を持てるように配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や好みの物を家族の協力を仰ぎ配置して頂き、本人にとって心地良く過ごせるよう配慮している。	事業所での生活のために利用者が持ち込んでいる物は、ベッド以外、全て利用者が自宅で使い慣れた馴染みの家具や利用者個々の使い勝手に合わせて用意された品である。自室のベッドは利用者の身体状況に合わせて使い易いように配置されるばかりではなく、窓外の景色や陽射し等の自然を楽しみたいという利用者の希望に応じても配置されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ等、要所要所に手摺を設置し、個々の身体状態に応じた福祉用具の導入等、安全面に配慮し残存機能を活かせるよう支援している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない